

知事定例記者会見

日 時 令和7年9月30日(火) 14:00～14:37

場 所 別館2階 記者会見室

(知事)

私の方から本日は3点ご報告を申し上げます。

1点目はですね、台風15号による被害等への対応についてでございます。

改めましてこの度ですね、台風15号によりお亡くなりになられた方にですね、心より哀悼の意を表させていただきます。また被害を受けた皆様にはですね、心からお見舞いを申し上げたいというふうに思います。

県といたしましては、全力を挙げてですね、復旧復興に取り組んでいるところでございまして、現時点での台風被害の対応について、ご報告させていただきます。

まず被災者生活再建支援法の適用についてでございます。本日牧之原市に対し、被災者生活再建支援法の適用を決定をいたしました。適用日は、被害発生日の9月5日というふうになります。遡っての適用ということでございます。なお、同法が適用されなかった被災市町につきましては同法と同一のですね、支援金を支給する本県独自の被災者自立生活再建支援事業がございますので、これにより支援をしてまいります。

次に、被災市町への職員等の派遣についてでございます。

牧之原市と吉田町の災害対策本部に、総括支援職員を常駐させまして、支援ニーズの把握や必要な助言を随時行っております。また県および市町から本日時点で延べ867人の住家被害認定調査等のですね、応援職員を派遣をいたしております。さらに健康管理や福祉ニーズに応えるため、引き続き災害派遣福祉チーム、いわゆるDWATをですね、日赤ころのケアチームの派遣を継続してまいります。

次に社会福祉施設等への支援でございます。障害者就労支援施設などの社会福祉施設等の復旧につきましては、被害状況の確認を踏まえ、国の災害復旧事業を活用するため、国と協議の準備を進めております。

被災した施設を1日も早く復旧させることによりまして、県民の皆様が安心してご利用いただけるよう、迅速な対応を図ってまいります。

中小企業の皆様への支援につきましては現在、被害状況の調査は進めておりまして、国と復旧に向けた調整をしております。今後は国や市町とも連携しながら、事業再開に向けた支援に取り組んでまいります。

被災者への義援金につきましては、9月9日から12月8日まで募集をしており、9月26日時点で、静岡県、日本赤十字社静岡県支部および社会福祉法人静岡県共同募金会、3社合計で1,000件、約4,500万円のご支援をいただいております。

ます。支援をいただきました皆様の御厚志に深く感謝申し上げますとともに、引き続き多くの皆様のご支援ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

被災者の皆様の生活再建を支援するため各種施策を着実に実施をし、1 日でも早く安心できる日常を取り戻すよう、引き続き全庁一丸となって取り組んでまいります。引き続き皆様のご理解とご協力を心よりお願いを申し上げます。

制度の内容や、これまでの対応状況等、詳細につきましてはこの会見終了後に担当部局から記者の皆様へご説明申し上げます。

1 点目は以上でございます。

2 点目は「しずおかオシノミクス～アニメツーリズム～」についてでございます。

10 月からエヴァンゲリオン、ゆるキャン△と連携したしずおかオシノミクス～アニメツーリズム～を実施いたします。

現在、浜松市や天竜浜名湖鉄道、遠州鉄道などで『エヴァンゲリオン』を活用した誘客促進事業を実施しておりますが、その取り組みを、富士山静岡空港に拡大いたします。富士山静岡空港では 10 月 4 日から、エヴァンゲリオンの世界観を体感できる旅客便のラッピング装飾や空のしおりでの特別展示を実施いたします。

また 10 月 1 日からはテレビアニメ『ゆるキャン△』と連携したキャンペーンを実施いたします。キャンペーンでは、デジタルスタンプラリー、駿河湾フェリーや JR 東海と連携した独自企画を実施し、県内への誘客と周遊を促進してまいります。

来年 2 月には、その他の県内ゆかりのアニメ作品を含めたマップの作成や、専用ウェブサイトを開設し、アニメツーリズムの推進を強化をしてまいります。

2 点目は以上でございます。

3 点目は、令和 7 年国勢調査に係る県民の皆様への呼びかけについてでございます。

令和 7 年国勢調査が 9 月 20 日から始まり、回答期限は 10 月 8 日水曜日までとなっております。国勢調査の結果は、今の日本の姿を表すもので、本県はもとより日本の未来を考えるために不可欠な資料となります。

県民の皆様には調査の重要性をご理解いただき、期限までに忘れずに回答していただきますようお願いを申し上げます。

回答方法につきましては、スマートフォン等で簡単に回答することができるインターネット回答を推奨しております。調査書類に同封された QR コードをぜひご利用をいただきたいと思います。なお、国勢調査を装った不審なメールやウェブサイトなども見受けられます。不審に思った際は、すぐに回答せず、まずはお住まいの市町にお問い合わせいただきますようお願いを申し上げます。

私からは以上でございます。

(幹事社)

ただいまの知事の発表について幹事社から質問させていただきます。牧之原市の杉本市長が県が自衛隊の派遣要請をしなかった判断について、疑義を呈しています。当時県として、自衛隊の派遣を要請しないと判断した理由と、経緯をお聞かせください。

もう1点ありまして、すいません。市や町から寄せられた被害状況に基づきどのような判断で、基準で判断されたのでしょうか。また災害発生時の県の初動対応について市町の情報共有のあり方など、現時点でどのような課題があったことを認識していますか、お考えを伺います。

(知事)

はい、自衛隊につきましては、これは派遣要請につきましてしっかり自衛隊の方に打診をいたしております。私のところにも杉本市長からですね、私は伺ったときに災害の瓦礫ですね、瓦礫の除去でありますとか、あるいは入浴支援とか給食支援、こうしたことを自衛隊に要請をしていただきたいということで、自衛隊の方に打診をさせていただきました。しかし自衛隊の方としては今回の案件につきましては、派遣の条件を満たさないということで、派遣をしないという方針でございました。詳しくはちょっと担当の方から補足をさせていただきます。

(危機管理監)

危機管理監の酒井でございます。今回のですね、派遣の経緯につきまして、このあとブリーフィングの中でですね、細かい状況について説明をさせていただきますが、今、知事がおっしゃったようにですね、県といたしましては、自衛隊としっかり連携してですね、調整を行ってまいりましたので、またそこは説明をさせていただきます。以上でございます。

(幹事社)

その他の質問のある社はお願いします。

(記者)

テレビ静岡です。お願いします。あの竜巻被害の件なんですけれども、住宅などの復旧はかなり進んでいるという一方で、消防団の施設だったり、市道だったり、公共の施設、道路の復旧が手つかずのところが多いようですが、このあたりに対して今後の対応をお聞かせください。

(知事)
これは。

(記者)
できれば知事から一言いただければ。

(知事)
ちょっと細かいことは、すいません、私の方もですね、もちろん早急に復旧させるということで担当部局の方にも指示をしておりますので、具体的な今の復興状況についてはですね、ちょっと担当の方から補足をさせていただきたいと思います。

(土木防災課長)
土木防災課長の望月です。今日ですね、牧之原市と県と合同で、災害復旧の状況を確認しています。今後ですね、その状況に応じて復旧方針を考えて、災害復旧事業に乗っけようというふうに考えています。以上です。

(記者)
NHK です。先ほどの自衛隊のですね、対応についてお伺いしたいんですけども、知事からの自衛隊に打診をしたというふうなご発言があったんですけども、これはもう県としての要請ということでもいいんですかね。

(知事)
要請をさせていただくということで、先ほど申しました災害廃棄物の除去と、入浴支援と給食支援、こうしたことについて地元から要望があるので、ぜひお願いをしたいということを、自衛隊の方には申し伝えたところでございます。

(記者)
関連してなんですけども、その上で自衛隊からはですね、派遣しないというような方針が示されたということですが、この自衛隊の対応についてですね、知事としてどのように評価されてらっしゃいますか。

(知事)
これは自衛隊としてのやっぱり判断がございますので、私からはなかなか申し上げにくいことではございます。これはまさに自衛隊としての、これまでの経験とかですね、知見のもとに今回は派遣するに至らなかったというご判断だと思いますので、そういうことかなというふうに認識をしております。はい。

(記者)

関連してなんですけども、昨日牧之原市長の会見ではですね、今後更なる仮設住宅の確保について県に求めたいというようなですね、お考えも示されてるんですけども、この住宅の確保ですね、どのように進めていかれるか教えていただけますか。

(知事)

一応今ですね、民間の借り上げ住宅とか、市営住宅、県営住宅を確保しております、数としてはですね、今のところ充足をしていると思います。ただ県営住宅などはですね、市外にもございますので、市内にそのままとどまりたいとかですね、被災者の皆様のニーズがある場合は、速やかに牧之原市さんとですね、連携して仮設住宅の対応もしていきたいと考えております。

(記者)

中日新聞です。よろしくお願いします。自衛隊派遣について伺います。牧之原だったり吉田町、取材していると市民から発災直後にもし自衛隊が来てくれたら心強かったという声も一部ではありました。一方で自衛隊側からしたらこの3要件、公共性だとか緊急性だとか非代替性に、なんていうか当てはまらなかったのかなということも思いますけども、知事から見てこの3要件のうち、どれに当てはまらなかったというふうに聞いてますかね、自衛隊からは。

(知事)

すいません、私直接ですね、自衛隊の方から伺ってないんですけども、どういう回答であったか。

(危機管理監)

はい。自衛隊からの回答はですね、3要件に該当しないということでの回答でして、具体的にどの部分に該当しないのかというところまでは、説明がございませんでしたので、内容についてはそこまでは我々としては承知していないということでございます。以上でございます。

(知事)

もし必要なら部隊の方に確認をいただければと思います。はい。

(記者)

知事から派遣要請を自衛隊にしたのは一度だけであってますかね。

(知事)

そうですね、すぐに担当の方に、その辺の経緯は。いくつか経緯がございますので、詳しくちょっと説明いただきます。

(危機管理監)

7日の経緯でございます。7日の日にですね、危機管理監でございますが、知事と一緒に現地の方に入りまして、牧之原市長からですね、直接知事の方に自衛隊の要請がございました。その直後にですね、私の方から県のこちらの本部の方に指示をしまして、牧之原市に状況、具体的にどれぐらいの被災があつてですね、そこにどういう形で自衛隊の派遣が必要なのかということを聞き取り、至急自衛隊の方に諮るようということで指示をしました。その中でですね、今の被災の状況とかを本部の方からですね、自衛隊の方に報告して、その回答が次の日に8日の日にあったと。これは3要件には該当しないということで報告があったというものでございます。またその他のですね、何度か要請がありましたので、そこについてはですね、この後、細かい経緯をまた説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

(記者)

あと最後に昨日の牧之原市長の会見で、市長からその自衛隊の派遣要請をもう少し具体的にする必要があるっていう問題提起もされたようなんですが、知事から見てこの派遣要請の具体化というのは、どうお考えでしょうか。

(知事)

はい。具体的なそういう被災状況とか、地元の要望でありますとか、そういうことを自衛隊の方に伝えてございます。そういうことで、抽象的に派遣してくださいということではありませんでしたので、自衛隊からこの場の確認を受けた点についてはですね、しっかり確認事項を報告しているというふうに思います。もし必要であれば、また自衛隊の方にも確認をいただければというふうに思います。

(記者)

静岡第一テレビと申します。自衛隊の災害派遣に関連しての質問なんですけれども今回の災害っていうのが、また土砂災害とか地震とかとまた性質が違うものだと思いますけれども、避難されてる方っていうのが避難所に行かずに自宅にその

ま、その被害を免れた場所にそのまま避難を続けていたり、在宅での避難だとか、親族のお宅に身を寄せているという方が多くいらっしゃいましたけれども、実際に被害を報告した際に、そういった方々のその在宅とか見えにくい部分のその避難者の数っていうのはその、どういう形で被害の状況を報告されたんでしょうか。

(危機管理監)

危機管理監でございます。被害報告の内容についてはですね、危機管理部の方から記者の皆さんに、毎日報告している報告を自衛隊の方にも報告させていただいてございます。当時 8,000 軒以上、多い時には 1 万弱のですね、停電が発生していて、自宅で入浴とかですね、そういうことが困難であるということがわかるような内容で、自衛隊の方には被災報告を、情報は提供してございますので、そういうものをしっかり見た上での判断であるというふうに考えているところでございます。以上でございます。

(記者)

ありがとうございます。すいません、続いてなんですけれども、災害派遣というところのあり方みたいな部分で、今回その、竜巻被害っていう、また新たな災害が発生して今後、災害派遣っていうのを検討していく上で、この制度に対する課題みたいな部分っていうのは、知事として感じられた部分というのはなにか。

(知事)

全体としてやっぱり竜巻、これだけの大きな竜巻被害を想定してなかったと。国の制度としてもですね。そういうところはですね、見られるわけでございますのでちょっと今回の件を整理して、必要があればまた国の方にですね、災害対応について、これからおそらくこの豪雨災害に伴って、同様のですね、竜巻被害というものが発生する可能性はですね、十分考えられますので、しっかりそうしたものにも対応できるように国の方にはまたお願いをしたいというふうに思います。

(記者)

まだ復旧というのがままならない中で、今後県として牧之原市だったり、被災した地域と今後どのようにこう、説明だったり、こういった姿勢で災害復旧に当たっていくかっていうのを改めてお伺いしたいです。

(知事)

もう基本的には寄り添って必要なことをですね、行っていくということでございますので、先ほども申し上げましたように、例えば住宅の確保で言えば、数はもう確

保しておりますけれども被災者の中にはですね、地元で過ごしたいという要望があれば、それは仮設住宅を至急整備するとかですね、地元の要望に寄り添って対応していきたいというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。

(幹事社)

それでは幹事社から質問します。駿河湾フェリーに関してなんですけれども、県は今後１年で存続の可否を判断するとしています。今議会でも審議がなされておりますが乗船者数や経営状況など、具体的にどのような指標を基準に判断されるお考えでしょうか。

(知事)

はい。これはまだ今後、当面１年間はですね、状況を見据えて、その状態のときの目標乗船数達しているかとか、収支状況ですね、特に重要になるのが収支状況、そのときにどういう状況になってるかっていうのをしっかり把握した上でですね、関係市町等とも十分協議しながら、存廃についてはですね、検討していくということになろうかと思っています。

(幹事社)

ただいまの幹事社質問に関する知事の回答について質問がある社をお願いします。

(記者)

中日新聞です。静岡市の難波市長だったり、静岡商工会議所の岸田会頭も運賃収入だけではなくて、経済波及効果も考慮して判断してほしいというふうにおっしゃってますけれども、知事はですね、この経済波及効果の考慮についてはどうお考えでしょうか。

(知事)

はい。あの経済波及効果の考え方もいろいろあろうかというふうに思います。いろんな交通事業でですね、経済波及効果がそれぞれ生み出しているわけでございますので、当然そういうことも含めて検討していくことになろうかと思っておりますけれども、それとやっぱり一番大事なのは、やっぱり収支状況でございまして、自走をしていけないと、これは持続可能性がございませんので、そこはそのときの経営判断になろうかというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。

(幹事社)

その他の質問がある社はお願いします。

(記者)

毎日新聞と申します。駿河湾フェリーの件で、経済効果というのも当然あると思うんですけども、もう一つかつてから、駿河湾フェリーの存在の理由として挙げられていたと思います、災害時のですね、その避難手段というところがあったかと思えます。これについては、存廃を決める際の材料にはなり得ますか。

(知事)

はい。災害のときに一定の、なんていいますかね、助けになるということもありますけれども、やっぱりその災害の規模にもよりますし、やはりかなりのですね、規模で災害対応しなければいけないということになれば、やっぱり海上保安庁、海保とかですね、あるいは自衛隊のですね、艦船あるいは装備、そうしたものが遥かに有効に機能すると思いますので、当然そちらが優先的に活用されることになろうかというふうに思います。はい。

(幹事社)

その他の質問ある社はお願いします。

(記者)

すいません、日経新聞と申します。よろしくお願いいたします。駿河湾フェリーについてお伺いしたいんですけども、1年間の状況を見るということで存続か廃止かの判断に関しては来年26年の夏から秋頃にかけてになるかなと思うんですけども、実際に今年というか9月の補正案で補助金等をもって今後1年間状況を見たときに、実際に廃止する、あるいは存続するっていうふうに決めるのはそのどのくらいの期間をもって判断をしていくんですかね。

(知事)

今の時点でどのくらいの期間をもって判断するかというのは決めてございません。1年後にですね、状況を見て判断することになりますが、そのときにはもちろん収支状況もそうですし、これご存知のように、この船も当然あと何年も使って

ですね、償却期間もございます。そうなりますと、その後今度、その船を新造するのか、どうするかとか、いろんなこれは経営判断にはですね、要素が入ってまいりますので、いろんなことを踏まえてですね、決断することになろうかというふうに思います。

(記者)

仮にその決断する場合、追加の補助金を出すですとか、あるいは追加の負担金を出すってなった場合には、27年度の本予算とかで組まないといけないようになるのかなと考えると、来年の秋までに、実際動かしてみて、その後状況判断するとなると、来年度中くらいには、その存続とか廃止は判断されるっていうイメージ感なんですか。

(知事)

はい。ここで今予断をもってお話できませんので、いつかということはもう今の時点で申し上げにくいと思いますけれども、そうした予算でありますとか、いろんなところにですね、影響が出ないようにような形で判断をしなければいけないというふうに思います。

(幹事社)

その他の質問のある社はお願いします。

(記者)

すいません、静岡新聞ですが、お世話になります。先ほどの自衛隊派遣の関係なんですけども、私も牧之原に何度か行ってきたんですけども、市からですね、その電柱の倒壊とか給食支援とかですね、入浴支援で自衛隊の支援が欲しいという話があって自衛隊さんから断られたと。その後、例えばその、入浴支援とか給食支援に関しては、誰が誰にどのように応援を要請したかっていうのはあるんでしょうか。

(危機管理監)

この後のですね、支援策の中で、入浴もですね、近くの入浴施設をですね、開放していただいたり、給食も NPO の方で対応していただいたりということで対応してまいりましたので、そこは報告をさせていただきたいというふうに思います。以上です。

(記者)

静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。ちょっと話題変わってしまうんですけど

れども、総裁選告示された後の初めての知事定例ということでお伺いしたいんですけれども。総裁選が実施されて初めてのあの会見となるので、ちょっとお伺いしたくて。総裁選に現在 5 人が立候補して選挙戦始まっていますけれども、この 5 人の評価を教えてくださいというのと、知事としてはちょっと言いにくいかもしれないんですけれども、どなたが望ましいと考えるか、どんな資質が必要だと考えるか教えてください。

(知事)

私が今この時点でどなたがということは、申し上げられませんけれども、またいろいろお話を伺ってる中で、今後のですね、日本をどういうふうに導いていくのかというところですね。もう少しビジョンが明確になるといいかなというふうに思っております。例えばいろんな経済対策についても、お話を皆さんされてますけれども、私、やっぱり規制緩和っていうのはですね、非常に大きな、これから日本にとって生産性、日本全体の生産性を上げていくために重要なことになると思いますが、なかなかそういうところに踏み込んだご意見も聞かれませんので、もう少し中長期的なですね、日本のこれからのあり方についてビジョンを示していただけるとありがたいかなというふうには思います。

(記者)

今後日本のトップに立つ方の資質としてどんなところが必要か、どんな人になってもらいたいのかというのがあれば。

(知事)

やっぱり今申し上げましたように、これから日本は非常に厳しい時代を迎えますので、例えば経済対策もいろいろいろいろありますけれども、その財政状況と見比べて財源どうするかとかですね、長期的に持続可能なですね、財政運営をどのようにやっていくとか、それからまた長期的なですね、日本のこれまでの停滞した経済を復活させるためにですね、私、大胆な規制緩和とか必要になってくると思いますけれども、そうしたことに踏み込んでいける、そういうリーダーであってほしいなというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。あともう一つなんですけれども、この総裁選に関連して、あの小泉陣営の方で今ステマ問題が話題になっていますけれども、これについてどう見てらっしゃるのか、どう思うのかというところと、影響はあると思うか、そのあたりをお聞かせください。

(知事)

基本的にやっぱり党内の総裁選であっても公平な形でルールに基づいてやるべきだというふうに思いますので、ちょっと行き過ぎた感は否めないと思います。

(記者)

ありがとうございます。

(記者)

何度もすいません。中日新聞です。話題がちょっと行ったり来たりして、あれなんですけど駿河湾フェリーについて伺います。あの知事の率直なご意見として、今の駿河湾フェリーに魅力を感じていますか、いませんかという質問です。乗ったこともあるかも含めてお願いします。

(知事)

もちろん乗船したこともありますし、非常に私はですね、いい路線だなとは個人的には思います。ただやっぱり経営ということになると、やっぱりまた別次元の話になってまいりますので、駿河湾の船上からですね、富士山が眺められるとか、非常に良い観光資源だとは思いますがやっぱり経営は大変厳しいなというふうに思います。

(記者)

なんとか残したいけども、収支が課題だねっていうニュアンスで受け取りましたけど、稼げない船はお荷物だから早く辞めたいっていうことではないということですか。

(知事)

できれば持続するに越したことはありませんが、これやっぱり、基本的に自走してもらわないとですね、持続可能性がございませんので、そのところはやっぱり厳しく見ていく必要もあるかなというふうに思います。

(記者)

フェリーの運営会社もですね、明日地元の企業の内定式でフェリーを使ったりですね、納涼イベントやったり、収支を改善しようと工夫はしているようなんですけども、まだまだ足りない部分もあるかもしれないですが、知事としてどんな取り組みがあれば稼げるフェリーになるとお考えでしょうか。

(知事)

基本的にフェリーとしてのですね、基本的に交通の足でございますので、そこで一定のですね、やっぱり収支バランスが取れないということであれば、これはイベントで一時的に稼いでも、非常に難しいと思います。ですからもし経営したいっていう会社が出てくれば、ぜひお願いをしたいというふうに思います。

(記者)

ありがとうございました。

(記者)

はい。ちょっと全く異なる話題です。すいません。先日ですね、焼津市の方でいじめ自殺に対する会見があって、被害者遺族が市教委を提訴するといったことがありました。浜松市長時代にですね、浜松市教委のいじめ問題に対するですね、対応が不十分だとする判断されて市長直轄の第三者機関による委員会ですらに再検討してももちろん認めて謝罪をされたと、直接市長自らも謝罪されたっていう経緯があったと思います。そういった点も含めて今回の焼津市教委の判断というのが適切であったとお考えになるでしょうか。もし適切でなかったとすれば、例えば県としてどういったことを、県とか県教委として、どういったことを焼津市教委に対して提案、指示、何らかアクションを起こされるっていう考えはあるでしょうか。

(知事)

申し訳ない、細かくですね、訴状内容等も見えてませんので、ここで軽々にはお話できませんけれども、いろんな今までのいじめ事件等を踏まえて、今はいじめの重大案件についてはですね、事前に首長にも報告をするということになってます。ですから私のところにも県立高校等ですね、そういう案件があった場合には、速やかに教育委員会の方から報告がなされるということで、先手先手でですね、そうした事案に対して対処していこうという今体制が組まれています。おそらく焼津の場合もですね、同じような仕組みになってますので、焼津の教育委員会から市長の方にもし事前にそれが重大案件として認識をされていたのであれば、報告がいつてるといいうふうに思います。いずれにしましても、しっかり教育委員会と市町あるいは首長の部局がですね、連携をして、こうした事態に対して、早急にですね、早期に手を打っていくということが必要になるんじゃないかなというふうに思います。

(記者)

今回の場合はその連携して早急に手を打っていくことができたというふうに判断

されていますか。

(知事)

すいません、申し訳ない。もう一度しっかり事案を調べてからでないとお答えしかねますので、また改めて回答させていただきたいと思います。

(記者)

わかりました。ありがとうございます。

(記者)

すいません、話題が度々変わっちゃって申し訳ないんですけれども、県の投資事業に関して伺いたいですけれども、先日、これは静岡市の中心になって進める事業ですが、静岡駅前の高層ビル事業が2年程度の遅れが発生するということが、この間明らかになりまして、県の事業でいうと中央図書館であったりですとか、あるいは浜松市と進める野球場であったりですとか、ハコモノ事業が複数あるかと思うんですけれども、まずその1点目として伺いたいの、JR東静岡駅前の図書館事業ですね、今回開会中の県議会においても年内目処に見直す方針というようなお話をずっとされてはいますけれども、年内といっても残り3ヶ月というところで実際に担当部局等でいろいろな検討が進む中で知事として見えてきた、この図書館の方向性というものがあれば、改めてこちら伺ってもよろしいでしょうか。

(知事)

基本的に県立図書館のあるべき姿っていうのが、まずこれが第一に優先されることになろうかというふうに思います。私、担当にもお話をしてるのは、やはり県の図書館というのは、市立や町立のですね、基礎自治体がたくさんですね、図書館をお持ちでいらっしゃいますので、まずはそういうところをしっかりと支えと、そこを補う、それがですね、県立図書館としての一番重要な役割であるし、またそういうところではですね、持ち得ないような貴重な資料でありますとか、図書をですね、県立図書館がですね、それを保有するというのがですね、私はやっぱり県立図書館としての一番大きな意味合いだというふうに思っております。ただ一方で今、既に図書館としての機能もございますし、東静岡のいろんな開発の中でのですね、位置づけもございますので、そこで賑わせを持たせるようなですね、どういう施設にしていくかということについてもですね、今後民間投資を最大限誘引していくということも含めて、検討していきたいというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。今の図書館の役割っていう点を考えると、必ずしも東静岡駅前でなくても大丈夫ってような見方もできるんですか。

(知事)

はい、ただ東静岡にですね図書館を今の県立図書館、なかなかあその場所では建て替えにくいので、一定のですね、図書館機能を持った施設を作ろうということについてはもう既に基本的な部分は決まっておりますので、あとは当然今の図書館のところの機能もどうするかということも含めて、予断を交えず検討していきたいというふうに思います。

(記者)

かしこまりました。それと関連して、県の財政状況一般に関してお伺いしたいんですけれども、先日ちょっと前に発表されたサマーレビューですね、来年度当初予算に向けたサマーレビューに関して、確か発表されたのが7月で2ヶ月ちょっと経つてと思うんですが、人件費の削減だったりですかデジタル化っていうところで、いろいろ報告が上がってきてるかと思うんですけれども、現時点における知事のこのサマーレビューの手応え等見えてきた数字等があれば伺ってもよろしいでしょうか。

(知事)

まだ確定はしておりませんので、これからまださらに詰めていかなければいけませんけれども、それぞれの部局の皆さんが一生懸命やっていただいたということは評価をしたいと思います。全体としての県の財政状況を考えると、もう少しですね、いろいろやっていかないといけないかなというふうに思います。

(記者)

その『もう少し』というのはどの部分とかってあったりするんですか。

(知事)

『もう少し』というのは、全体の今の財政の状況を踏まえますと、まだまだ資金手当債に頼らないとですね、予算が組めないという非常に厳しい状況下にございますので、それを打開するためにはですね、あらゆることをやっていかなきゃいけないという意味でございます。

(幹事社)

以上で、記者会見を終わります。ありがとうございました。

(知事)

はい、どうもありがとうございました